

令和元年度 第1回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和元年6月3日（月）13：45～15：15

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育長	宮崎 肇
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
教育委員会委員	吉村 恭子
（事務局）企画部長	佐々木 智
企画課長	小尾 千智
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主任	松本 亮大
（教育部）教育部長	澤田 徹
教育部次長	千田 義彦
学校指導室長	小松 義幸
企画総務課長	伊藤 樹美
学校教育課長	高橋 裕輔
青少年課長	片山 学
学校指導課長	大西 智彦
企画総務課総務係長	田中 稔大

▼内 容

○佐々木企画部長

ただいまから、令和元年度第1回千歳市総合教育会議を開催致します。はじめに、山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

皆さん、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

皆さんとは日ごろ、様々な立場でお会いしていますが、このように一堂に会する機会は本会議以外ではあまりありませんので、大変有意義に感じています。本会議も回数を重ねてきておりまして、これまでも教育施策についての説明を受けながら、情報共有をし、理解を深め、それに基づいて議論をしております。また、毎回テーマを決めて議論をさせていただく貴重な機会でもあります。我々行政としては、教育部と企画部が本会議の担当になっておりますが、庁内で課題を共有するひとつのシステムとしての意味も本会議にはあります。今日は闊達な議論ができればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

○佐々木企画部長

この後の進行につきましては、千歳市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が議長を務めることとなっておりますことから、山口市長にお願いをいたします。

○山口市長

それでは、次第に従いまして進めたいと思います。まず、はじめに平成30年度の教育施策について説明していただくとともに、今年度の取組についても、併せて説明をしていたき、情報共有をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○澤田教育部長

教育部長の澤田と申します。私からご説明させていただきます。

お手元のA3横長の資料「千歳市教育施策の平成30年度実施状況と令和元年度の主な取組」をご覧ください。

(「千歳市教育施策の平成30年度実施状況と令和元年度の主な取組」について説明。)

○山口市長

ただいま事務局から概要について説明がありましたが、相当な領域にわたっており、いずれも拡充や新規が多いようですが、どの点に絞って議論をすべきかについて、事務局で用意があれば教えてください。

○澤田教育部長

毎年、学力向上の取組を議題としておりますが、はじめに、令和元年度の重点取組事項についてご説明したいと思います。

主な取組については先ほどご説明した通りですが、重点取組事項としては2点を定めております。ひとつは、学習規律の定着100%、もうひとつは、指導が立ち行かない学級ゼロを目指しております。

学習規律とは、児童生徒が落ち着いた環境の中で気持ちよく学習を進めるための基本的なルールのことを指します。具体的には、学習の準備として、筆入れの中身や机の中の整理、机の上の学習用具の配置等のほか、普段の学校生活における挨拶や姿勢、話し方、聞き方などのきまりです。資料として、千歳小学校の事例をお配りしていますのでご覧ください。この学習規律の徹底に向けた取り組みは、小学1年生から見通しを持って進めることが重要と考えておりますことから、今年度の学校運営に当たっては、全教職員が意識を高め、学校全体で定めたルールの共通理解と指導の徹底を図り、学習規律の定着100%を達成することとしています。

もうひとつの重点取組事項は、指導が立ち行かない学級ゼロを目指すことです。指導が立ち行かない学級とは「学級がうまく機能しない状況」のことで、子どもたちが教室内で勝手な行動をして教師の指示に従わず、授業が成立しないなど、集団教育という学校の機能が成立しない状態が一定期間継続し、学級担任による通常の方法では問題解決ができない状況に陥っている場合として捉えています。こうした要因には、指導方法が画一的で、学級の実態を踏まえた指導ができていない場合や、騒がしいことと活気があることを混同

している場合など、様々考えられますが、組織的な指導体制を確立し、校長をはじめ管理職を中心として、教員の日々の授業に対し指導を行うなどのほか、学級において指導の立ち行かなくなる状態ゼロを目指して重点的に取り組んでいくこととしております。

重点取組事項については以上であります。

○ 山口市長

それでは、このことについて意見交換をしたいと思います。何かご意見はありますか。

○ 佐々木教育長職務代理者

いま部長から話がありましたが、学習規律が学力向上に一番影響があると思います。私も、市内外の学校を視察しましたが、どの学校もそれぞれ趣向を凝らした形で学習規律をしっかり定めようとする動きが見られており、市内の学校は比較的うまくいっているような気がします。先ほど千歳小学校の事例が上がりましたが、当たり前のことですが、挨拶をしっかりすることであったり、座り方であったり、授業が始まる前の準備であったり、こういったことが低学年の教室に掲示されています。話を聞くと、高学年になればこういった掲示がなくともしっかり実施できるようになっているとのこと。この取組みは今後も強化していく必要があると思いますし、小学校に上がる前の子どもたちにも事前に教えることができれば、もっと良いのではないかと思います。

○ 山口市長

他にはありますか。

○ 荒井委員

私の記憶では、学校規律が徹底されたのは5、6年前からだったと思います。自分の上の子どもが小学生の頃は、小学生の筆入れは大きなものが多く、女子は色々なものを入れたり付けたりしていて、学習中でも分からなくなると筆入れを使って遊び始めてしまったり、落ち着かない様子がありましたが、自分の下の子どもが小学5、6年生の頃に学習規律をしっかりするようになり、参観日でもすごく落ち着いた様子が見られるようになりました。また、机の上に余計な物もないので、限られたスペースを有効に使えていました。やはり学習規律は重要だと思いますので、市内の学校でも徹底していただきたいと思います。

○ 山口市長

橋場委員はどうですか。

○ 橋場委員

同じような意見にはなりますが、授業にメリハリをつけるのは重要ですし、子どもたちの意欲をうまく引き出せるように話し合うことが重要だと思います。自分の子どもも、特に低学年の頃は落ち着きの無さが気になりましたので、早いうちから指導を継続していくことが重要だと思います。

○ 山口市長

吉村委員は、教師としてご自身でどのような指導をされていたか。

○ 吉村委員

高校でも学習規律が大事だということは認識されています。高校は教科によって先生が変わるので、指導方法を統一しなければいけないという話題はよく挙がっていました。学習規律の徹底は、全市的に取り組むべきことだと思います。指導が立ち行かない学級について、生徒の個性もあるとは思いますが、守るべきことはしっかり指導していくべきだと思います。市内の学校でそれぞれ特色ある指導はされていると思いますが、一番気になるのは、鉛筆を正しく持つことです。持ち方だけでなく、筆圧をコントロールすることも大切です。こういった基礎的なことを、きちんと教えていくことが大事だと思います。

○ 山口市長

こういったことは、実は生活の決まりでもあると思います。幼稚園などでもこういったことは指導していると思いますが、とても大切なことだと思います。口で言うだけでなく、繰り返し身に付けさせることが大事ですが、行き過ぎた指導にならないよう気を付ける必要もあります。

鉛筆を正しく持つことは、家庭で箸を正しく持つことと同じだと思います。箸を正しく持つことは、とても重要なことです。

○ 佐々木教育長職務代理者

最近では外国人観光客の方でも、箸の使い方が上手い方が増えています。

○ 山口市長

なぜ箸を正しく持つ必要があるかと言えば、美しいからです。日本人としての一つの形だからだと思います。そういうことを教えていく必要があると思います。

もうひとつ議論をしたいのですが、指導が立ち行かない学級についてですが、これは実際に市内でこのような学級があるのでしょうか。

○ 小松学校指導室長

多数ではありませんし、程度も色々ありますが、一部にいくつかは見られています。

○ 山口市長

要因としては、例えば教師の指示に従わない子どもが1人いて、その子どもに全体が引っ張られているのか、先生が好きではないなどの理由で、学級全体が授業をつまらないと感じる雰囲気があったりするのか、こういったケースがあるのですか。

○ 小松学校指導室長

様々なケースがあると思いますが、担任教師の指導力の問題や、特別に配慮が必要な生徒がいる場合、家庭における教育の問題や、学校全体の指導体制の問題などがあると思います。

○ 山口市長

特別に配慮が必要な生徒が原因の場合は、その生徒に対する指導方法を考えることになると思いますが、教師の指導力に問題がある場合、どのように対応していますか。

○ 小松学校指導室長

そのような教師がいる場合は、適正に対応していきます。

○ 佐々木教育長職務代理者

担任教師を変更することで解決した事例はあるのですか。

○ 小松学校指導室長

学年が変わって、担任も変わったことにより改善された場合もあります。また、担任一人に任せずに、他の教師がフォローに入ることにより改善された場合もあります。

○ 山口市長

つまり、学校としても、教師が適性を欠いている場合も想定して対応しているということですね。

○ 小松学校指導室長

そのとおりです。

○ 佐々木教育長職務代理者

担任教師の適正について判断することは、難しい部分ですね。

○ 荒井委員

学校でも、問題がある学級を校長先生や教頭先生が様子を見に行ったりなどしているようです。

○ 山口市長

学習支援員は、このようなケースには関わらないのですか。

○ 小松学校指導室長

学習支援員が問題のある学級に入って、重点的に指導を行うケースもあります。

○ 山口市長

重点事項として取組むということは、そういった学級がそれなりにあるということなのですね。改善策についてはまとめていますか。

○ 澤田教育部長

校長会においても、学校全体の指導体制と、管理職による授業参観の実施を指示しています。その中で、疑問点があれば都度担任に指導するよう対応しています。

○ 山口市長

このことについて、保護者から何か意見は出ていますか。

○ 小松学校指導室長

今のところはありません。

○ 吉村委員

学校体制としては、研修という形で、うまくやっている先生の授業を見せることが一番良いのではないのでしょうか。逆に、うまくいっていない授業を他の先生に見てもらう、という形もあると思います。

○ 佐々木教育長職務代理者

最近では家庭教育などにより、入学前から字が読めたり書けたりする子も多くいます。昔は、小学校に入って初めて字を習うような子も少なくありませんでした。早いうちから家庭教育に取り組むことが重要であり、親の役割が更に重要になってきていると思います。

○ 荒井委員

千歳市は、入学前からの教育に熱心な方も多いと思います。未就学児の頃から塾に通わせている家庭もあります。

○ 佐々木教育長職務代理者

学習についてもそうですが、食事の仕方なども含め、規律の部分をしっかり家庭で教育することも大事です。

○ 山口市長

昨年配布した家庭学習のクリアファイルがあったと思います。これはとても良いと思うのですが、裏面に学習時の姿勢や筆記用具の持ち方など、規律の部分を記載するのも良いかもしれません。

簡単なことですが、だからこそ繰り返して身に付けさせることが重要です。名前を呼ばれたら返事をするなど、幼稚園や保育園の頃から教わってきた部分もあると思います。

では、次に移りたいと思います。学力向上のモデル校に関する取組について、もう少し説明してもらえますか。

○ 小松学校指導室長

では、昨年度の学力向上モデル校の取組について、若干ご説明いたします。

昨年度までの2年間、日の出小学校、北陽小学校、泉沢小学校の小学校3校と、富丘中学校、北斗中学校の中学校2校、計5校が学力向上モデル校としての指定を受け、各学校の実態に応じた学力向上検討委員会の提言を踏まえた取組を実施してきました。主な取り組みの成果について、4点ほど挙げられていますのでご説明します。

まず1点目は、2人組のペア学習や4～6人組のグループ学習を取り入れて、子供たちが自分の意見や考えを発表したり、書く場面を授業の中に位置付けたりするなど、学んだ

ことをアウトプットする場面を増やすことによって、思考力や判断力、表現力などを伸ばす取組を実施しています。

2点目は、学習支援員を活用した習熟度別指導を行う際に、これまでは下位層の子どもたちに焦点を当てて取り組んでいましたが、昨年度は中位層や上位層の子どもたちもしっかり伸ばすことを視野に入れて、意図的で柔軟なグループ分けを行い、全体の学力を向上させる取組を実施しました。

3点目は、授業の中で振り返りの場面を設定したり、放課後学習や家庭学習の際に、少し前に学んだことを再度取り組ませたりするなど、学び直しや振り返りの学習により、学習したことを確実に身につかせる取組を実施しました。

4点目は、北陽小学校のような大規模校の場合でも学校全体で統一した指導を行うために、学年連携部という新たな組織を活用した取組や、富丘中学校のように教科部会で数値目標を設定して組織的に授業改善を進める取組など、組織のマネジメント力を高める取組を実施しました。

これらの成果については、報告書や校長会議を通じて市内の学校に発信しています。

○山口市長

このことについて議論をしたいと思います、何かありますか。

○佐々木教育長職務代理者

これについては、市内の学校を視察しましたが、電子黒板などのICT機器が充実してきており、これらの活用が学力向上に役立っていると私は考えています。子どもたちは普段の生活の中で、視覚から情報を得る機会が多いので、うまく活用されていると感じます。使い方にはまだまだ課題はあると思いますが、今後ますます充実化させていくべきだと思います。

○荒井委員

私は、今年度も学習支援員の方を増員していただけたことがありがたいと思います。このことによって、学びが少し遅れている子どもに対してのフォローや、進んでいる子どもに対して発展的な学習をさせることなど、生徒全員の理解度を深める学習ができるのではないかと思います。また、市P連が行っている家庭生活宣言によって、学校だけに任せるのではなく、家庭でも学習を進めていただき、力を合わせて進めていただきたいと思います。

○山口市長

橋場委員はいかがですか。

○橋場委員

少し議題とは違うかもしれませんが、最近はAI技術の発展により、今まで人間がやっていた仕事がAIに置き換わったり、逆に今現在ない仕事が生まれたりするのかなと思います。そういった新しい環境に適應できる大人になれるよう、今のうちから取り組んでもらいたいと思います。

○吉村委員

電子黒板などのＩＣＴ機器について、千歳市はとても力を入れていると感じます。他市から来た先生方も、機器の充実ぶりを感じているようです。最近の子どもたちは、目や耳から入ってくる方が情報を取り入れやすいのかなとおもいます。昔は一生懸命黒板を写すことだけを授業としていたところもあったと思いますが、目や耳から情報が入って、それをすぐに考えるのが、思考力や判断力の向上につながると思います。最近はタブレットを一人ずつに与えているところもあるようなので、財政的な問題もあると思いますが、検討してもらいたいと思います。

○山口市長

皆さんのお話にも合ったように、電子黒板など視覚的に訴えることは、非常に引き付ける力があります。３Ｖの法則というものがあり、情報は、Visual（視覚）Vocal（聴覚）Verbal（言語）の順番に影響力があると言われています。昔の先生は、３番目の言語、つまり内容ばかりを伝えようとしていましたが、それでは中々伝わりません。まずは視覚に訴えて、次に耳から入った情報を、頭で考えるという順番が良いのだと思います。先ほど話が合った、授業が立ち行かない学級においても、そういった点を意識した方が良いのかもしれません。

○荒井委員

授業参観の際も、保護者の方が電子黒板の授業を食い入るように見ているような状況もあります。理科の実験で手元を拡大して見せるなど、うまく活用されていると感じます。

○佐々木教育長職務代理者

先生によって使い方に差が出たりはしないのでしょうか。

○小松学校指導室長

校内、市内で研修を行っていますので、どの先生もある程度使いこなすことはできると思いますが、中には特にＩＣＴ機器の取扱いに長けており、うまく活用されている先生もいると思います。

○吉村委員

そういった方には、校内で共有するなどしてもらえれば良いですね。

○山口市長

やはり視覚に訴えるのはとても大切なことだと思います。私が中学生のころ、授業中に漫画を描く先生がいらっしゃいましたが、とても素晴らしく釘付けになった記憶があります。

○佐々木教育長職務代理者

市長がおっしゃるように、まずは興味を持たせることが大切ですね。

○荒井委員

先生が好きになれば、その教科のことも好きになれるかもしれません。

○山口市長

子どもたちから特に人気があるのは、どんな先生ですか。

○小松学校指導室長

やはり、子どもたちとよく遊んでくれたり、子どもの目線で話してくれたりする先生ではないでしょうか。

○山口市長

どうすれば子どもたちに好かれる先生になれるかというのも、ひとつの研修として必要かもしれませんね。

○荒井委員

小中学校ではデジタルな教材で学習をすることができますが、高校に入るとアナログに戻ってしまう印象があります。

○佐々木教育長職務代理者

高校ではＩＣＴ機器はあまり活用されないのでしょうか。

○吉村委員

テレビなどは整備されつつありますが、ＩＣＴ機器はまだあまり整備されていませんね。そういう意味で、進んだ時のギャップは大きいかもしれません。

○山口市長

では、次に移りましょう。外国語教育の充実について、説明をお願いします。

○高橋学校教育課長

では、縦長の資料にあります「外国語教育の充実」について私からご説明させていただきます。

（「外国語教育の充実」について説明。）

○山口市長

少しイメージがつかめない部分があるので質問します。小学校から中学校を段階で分けるとどのようになりますか。

○高橋学校教育課長

小学校は低学年、中学年、高学年、中学校は各学年、といった形です。

○ 山口市長

そうすると、各段階でおおよそどのようなことに取り組むのですか。資料にある内容を全て取り組むのは相当に大変な気がします。

○ 小松学校指導室長

小学校低学年では、英語に慣れ親しむことを目的として、挨拶をしてみたり、歌を歌ってみたり、絵本の読み聞かせを行ったりしています。

○ 山口市長

読み聞かせの教材はどんなものを使っていますか。

○ 小松学校指導室長

「はらぺこあおむし」という絵本を使っています。小学校低学年では、絵本の読み聞かせを2年生までの目標としています。中学年でもこれを発展させて、聞くこと、話すことを中心に行い、高学年になると、少し書くことが加わってきます。

○ 山口市長

英単語の暗記はどの段階で学習するのですか。

○ 小松学校指導室長

低学年から徐々に学習していきます。

○ 山口市長

発音は誰が指導しているのですか。

○ 小松学校指導室長

A L Tの方がネイティブな発音を指導しています。

○ 山口市長

それは大事なことです。中学校に入ってからどんなことを学びますか。

○ 大西学校指導課長

中学校に入ると、文法などの学習が始まります。

○ 山口市長

なるほど。小学校から英語を導入するというのは、非常に良いことだと思うのですが、実際はどのようなのでしょうか。

○ 小松学校指導室長

小学校低学年から、楽しそうに取り組んでいます。最初は講義というよりも活動的な内容が多いので、楽しく取り組めるのではないのでしょうか。

○ 山口市長

自分の感情と連動させて、楽しいときに使う言葉、などと覚えることもできるかもしれません。

アンカレジ市のミアーズ中学校からホームステイの子どもたちが来ますが、積極的にコミュニケーションをとっているのでしょうか。

○ 宮崎教育長

ホームステイ先では積極的に行っていると思います。子どもの性格にもよるとは思いますが、お互いに学校訪問をして授業にも入っていますので、交流はあると思います。

○ 山口市長

サンドレイク小学校の授業は一度拝見しましたが、すごかったですね。数学の授業を、完全に日本語で行っていました。小学校から英語に取り組むことで、こちらも更に進んでいけると良いですね。

○ 小松学校指導室長

向陽台小学校が今年の2月に新千歳空港に行って、海外の方と話をしようという取組を行いました。最初は恥ずかしがったりする状況も見られましたが、意欲的に話しかける姿も見られました。

○ 佐々木教育長職務代理者

宿泊業界で使っていたインバウンドという言葉が世の中で普通に使われるようになっていくように、英語が今後必要になってくることは誰しも理解するところです。海外のお客様が来られれば、日本のおもてなしということで、英語での対応が必要になります。本市へ訪れる宿泊客のうち、3～4割は海外の方です。向陽台小学校が行った取組を、支笏湖小学校でも行うことができるかもしれません。

ひとつ心配なのは、昔の経験からすると、中学校でいきなり英語が始まって苦手意識を持ってしまい、その後ずっと英語が苦手と感じたりするように、小学校低学年から英語に苦手意識を持つようにならないか、そうならないようにフォローする体制が必要かもしれません。

どうあっても英語は必要になりますから、まずは基礎からしっかりしてもらいたいと思います。

○ 荒井委員

子供たちの将来を考えれば英語などの外国語は絶対に必要になります。最近は自動翻訳等の技術も発達してきていますが、コミュニケーション能力という意味では、うまく話せなくても目を合わせないようにするのではなく、積極的に交流を図るような姿勢になってもらいたいです。そういう意味では、向陽台小学校の取組は、千歳らしさもあって非常に良いと思うので、ほかの学校でも取り入れても良いと思います。

○ 山口市長

橋場委員はいかがですか。

○ 橋場委員

幼いころから英語に慣れ親しむことは大切だと思います。私は学生のころ、英語がすごく苦手でした。教科書も開きたくないと思う時期もありました。先ほども話にあったように、中学校 1、2 年生の頃に合わないなと感じてしまうと、その後が辛い時間になってしまいます。そうならないように、指導していったほしいと思います。

○ 吉村委員

英語の授業を拝見しましたが、この授業なら楽しいだろうと感じました。最初にこういった形で触れれば、英語が嫌いにはならないだろうと思いました。最初から文法などを覚えなければいけないというのは、つらかった記憶があります。最近は教材も良く考えられたものになってきていますので、興味関心を持ちやすいと思います。

向陽台小学校の取組はとても良いと思います。自分が学生の時、修学旅行中に外国の方に話しかけて一緒に写真を撮らせてもらうという課題がありました。自分から積極的にコミュニケーションをとれるようになるのは大切なことです。他の学校でも、独自性はあった方が良いと思いますが、導入しても良いと思います。

○ 山口市長

皆さん必要性は認めているようですが、最初に躓いてしまうとその後が楽しくなくなってしまいます。日本人は単語を覚えたり、書いたりするのは得意ですが、聴くことは難しいと思います。そのためには、数多くの外国人と接して英語に慣れ親しむことが必要です。日本語は比較的抑揚が平坦ですが、英語や中国語などの外国語は抑揚が大きいので、そういうところもあるかもしれません。

○ 佐々木教育長職務代理者

最近、単語によっては英語を先に覚えて後から日本語を覚えるようなこともあるようです。

○ 山口市長

外来語を覚えるだけでも相当なボキャブラリーになると思います。日本語らしく平坦に発音するのではなく、外国語らしく発音することが練習になるかもしれません。

○ 佐々木教育長職務代理者

私たちの宿泊業界では必要に迫られるので、仕事で使う英語であれば意外と話せるようになるものです。電話はできなくても面と向かえば分かる、というようなこともあります。

○ 山口市長

小学生からやらなければならないというのも、子どもたちにとっては大変かもしれませんが、ぜひ頑張ってもらいたいですね。

その他に、ご発言はありませんか。この機会に、全般的なことでもあればお聞かせください。

○佐々木教育長職務代理者

強いて言えば、先般から問題になっている登下校時の事故など、気を付けようがないかもしれませんが、子どもたちの巻き込まれる事件、事故が非常に多いので、我々も何とかしたいと思っています。

○山口市長

そのことについては、全てをまとめきれているわけではありませんが、私としては、これまで考えられなかったようなことも起きているし、対策をしても防ぎきれないようなことも起きている中で、これまでどんな対策をしてきて、充足しているのか不足しているのかも含めて、体系的にまとめるよう企画部に指示しているところです。少しお時間を頂いて、子どもが気を付けること、親が気を付けること、行政が気を付けることなどをまとめたものを、今年度にはお見せできるようにしたいと思います。

最近が高齢者の問題も増えてきています。普段は支障がなくても、瞬間的な判断力に問題があるようです。警察等でも状況分析をしていると思いますが、本市も今年度から高齢ドライバーの免許返納を推奨する取組を開始しました。しかし、高齢者といってもひとくくりにはできませんし、生活するには絶対に車が必要な人もいますので難しい問題です。

○荒井委員

最近のそういった事件のニュースを受けて、市民からの問合せ等はあるのですか。

○澤田教育部長

いまのところはありません。

○佐々木教育長職務代理者

町内会との連携も必要だと思います。

○山口市長

今般の事件を受けて、町内会でも見守り隊の人数を増やしたりしていただいたところもあると聞いています。

○吉村委員

ある町内会では、高齢の方へ健康のために散歩することを進めていて、散歩の時間を登校時間に合わせてもらうことで、見守りを行ってもらうということもしているようです。

○荒井委員

ペットの散歩ついでに不審者対策としての見守りしてもらうというのものもあるようです。

○ 山口市長

おおむね意見は出きったかと思いますが、よろしいでしょうか。
では、以上を持ちまして議題については終了させていただきます。

○ 佐々木企画部長

諸連絡をさせていただきます。

次回の会議につきましては、11月頃に開催予定です。この他、緊急的に開催が必要な場合につきましては、随時開催致しますのでよろしくお願い致します。

以上を持ちまして、終了とさせていただきます。

○ 山口市長

ありがとうございました。